

沖縄地域の原風景に関する研究

—沖縄学・芸術分野における意識調査を中心として—

— A Study on Basic Regional Landscape in the Region of Okinawa —

琉球大学大学院 ○学生会員 大出水 健一郎

琉球大学工学部 正会員 上 間 清

1. まえがき

地域住民の環境への関心の高まりを背景に、土木施設の景観への対応が重要な課題となって久しい。また、景観に関する研究の蓄積、図書の出版も顕著となってきている。地域にあっては、土木施設の計画や設計において、地域特性、アメニティーの付与を通して、そのアイデンティティを求める考え方が定着し、多くの分野で調査研究がなされ、地域の特性を生かした地域景観づくりが取組まれている。

このような背景をもとに本調査は、沖縄地域における「原風景」の内容や特性、また、景観計画への活かし方等に関する各界の方への原風景に関する意識状況を把握することをも目的として行ったものである。

2. 意識調査の経緯

(1) 調査目的と方法

本研究においては、原風景を“その地域における長きにわたる生活を通じて、人々に意識されている不易性を有する定着した風景”と位置づけ、各分野の方々に意識調査を行ったもので、これまでに行われた3回の調査のうち、第2回、第3回の調査について報告するものである。

調査の方法としてはアンケート方式を採用し、原風景の定義や回答者の属性、原風景への意識等について、第2回調査は平成8年6月に沖縄学分野の方を対象に、第3回調査については平成9年9月に、沖縄の芸術分野の方を対象として調査した。回答者数は第2回調査53、第3回調査40のサンプルを回収した。

(2) 調査回答者の属性

各調査のとも、回答者の属性(年齢、分野)、原風景定義、沖縄原風景に対する関心(意識形成、原風景事項等)および景観整備への意見等について調査した。

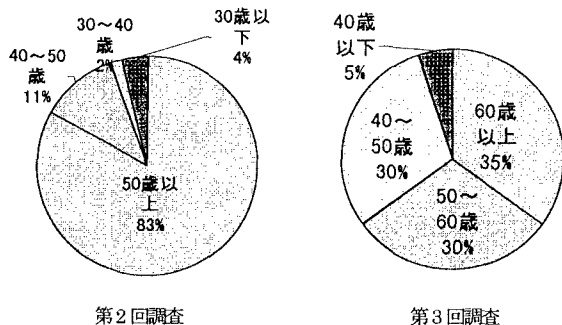


図-1 調査回答者の属性-年齢構成

図-1には各調査におけるアンケート回答者の属性のうち年齢構成を示したグラフである。第2回調査では、50代以上が全体の83%を占めており、「沖縄」経験も十分な方々が含まれていると思慮される。沖縄をより知悉されている方々という調査対象者選定の意図とも整合しているものと考えられる。

次いで第3回調査では、40歳以下の5%を除いて各世代30%程度の分布をしており、世代別の分布が均衡していることが分かる。

表-1 意識調査回答者属性-分野

第2回調査-沖縄学分野		第3回調査-芸術分野	
歴史学	17	絵画	17
民俗学	14	彫刻	4
文化史	13	陶芸	4
伝統工芸	8	写真	7
地方史	11	織物	2
伝統芸能	10	染色	4
絵画・彫刻	5	漆芸	1
産業経済	16	書道	1
		デザイン	7

表-1は各調査の回答者の分野を示したものである。各調査とも沖縄県内に在住する方を対象として調査を行ったものである。

3. 意識調査成果と考察

各意識調査についての分析であるが、まず原風景定義については、適当であると評価したのは、第2回で26%、第3回で13%であったが、一応評価されるとしたものを含めると、第2回で90%、第3回で60%であり、この結果から考えて、前提とした原風景定義は適当であると考えられる。ちなみに適当でない理由として指摘されたものは、“不易性”“長きにわたる”部分が現在では適合していない為などの意見があった。

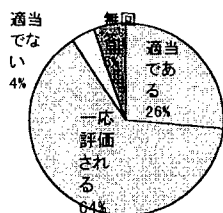


図-2 第2回調査-原風景定義

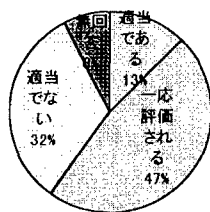


図-3 第3回調査-原風景定義

ついで、原風景形成に関する要素についてであるが、原風景の形成において重要な関連として指摘の高い順を示すと、第2回調査では、「生活歴」(77.3%)、「歴史意識」(「地域関心度」が同意で64.2%と続き、「年齢」(45.3%)、「行動範囲」(26.4%)、「地域情報量」(22.7%)の順となっている。第3回調査では、「生活歴」(75.0%)、「歴史意識」(62.5%)、「地域関心度」と「年齢」(42.5%)が同位で続き、「地域情報量」(32.5%)、「行動範囲」(30.0%)の順となっている。結果としては、両調査とも上位4つが同順であり、原風景意識を形成する要素として位置づけることができると考えられる。

次に、地域景観整備と「原風景」との関わりについては、回答者のうち景観問題に“強い関心を持つ”と回答したのは第2回調査で56%、第3回調査では55%であり、両調査とも半数以上の方々が景観問題について強い関心を持っていることが明らかになった。そして、景観問題を考える上で「原風景」の理解の重要性については、第2回調査では90%、第3回調査では97%の方が「極めて重要」もしくは「重要である」と回答している。この結果より景観整備における「原風景」の理解は重要であり、十分な配慮が必要であることが言える。

5. 原風景抽出—種別と特性

各調査において、回答者が指摘した原風景項目は、第2回調査では132項目、第3回調査では118項目であった。この項目を、「人工造営系」、「自然系」、「生活所作系」、「混合系」の4種類に大別して、それぞれに関わる内容を分類した。大別ごとに指摘種数の多い順に並べると、第2回調査は自然系(指摘種数52)、人工造営系(指摘種数41)、生活所作系(指摘種数24)、混合系(指摘種数15)となり、第3回調査では、自然系(指摘種数42)、人工造営系(指摘種数31)、混合系(指摘種数24)、生活所作系(指摘種数21)の順となった。

表-2 指摘された原風景一例(第2回調査)

人 工 造 営 物	建 造 物	赤瓦屋根(伝統的。家。家並み、多く見える風景。ひさしの長い構造) 家並み 建物 木造の民家 カヤブキの住宅 家屋 水タンク 赤瓦及び茅葺きの屋根 守礼之門 波の上神社
	石造構造物	石垣(琉球石灰岩、家屋敷、乱積したもの) 城(グスク) 中城跡址 シーサー(石獅子) 首里城(現存) 石垣の城 亀甲墓のある風景
	集 落	集落のたたずまい 福木の集落 赤瓦の集落 集落の原風景 赤瓦屋根、石垣をもつ集落 汀良町のマチャー
	道	石畳(道) 道路 道すじ スーヅ小 石灰岩道路(白っぽい土の道路、舗装されない白い道、石粉道)
	そ の 他	湧水(古井戸) 拝所 御嶽 墓地 農地 港の風景—那覇 マチャグラー ハイビスカスの生垣 ヒンヤン 公園 ひめゆりの塔 人工造営物 まぶらにの丘の旧帝國陸軍が自した洞窟

両調査とも原風景として指摘された項目は、自然系と人工造営系が回答者の原風景意識として優位を占めていることが分かる。その中で、各項目を細分化して注目すると、両調査とも自然系は、「風土(海、空等)」「植物(フクギ、キビ畑等)」, 人工造営系では「建造物(赤瓦屋根、家並み等)」, 「石造構造物(石垣、亀甲墓等)」が指摘原風景に大きく関連していることが分かった。表-2には指摘された原風景のうち第2回調査の人工造営系の一例を表わしたものである。

表-2からも分かるように、各調査における回答者の指摘する原風景は数多く分布しているが、その中で大きな部分を占めている自然系、人工造営系の項目に留意して「原風景」を景観計画の視点から考えるとき、人々の意識の中で根づいている原風景を構成する個性的な要因—風土、植生、その他の自然系の要因に着目し、ついで伝統的の家屋等の建造物や、石造構造物などの人工造営系に注目して原風景を反映ししなければならない。しかしながら、景観計画は特定のマニュアルが存在するものではないので、原風景の景観計画への反映も困難な場合も予測されるので、状況に応じた幅広い判断が求められるだろう。

6. 結 語

以上、沖縄地域の景観問題について、沖縄原風景研究の一環として行われた“沖縄原風景に関するアンケート”の第2回調査と第3回調査の結果について述べた。沖縄学および芸術分野の方々が、原風景に対して強い関心を持ち、その意義や重要性、また景観整備上の利—活用について、両調査とも積極的な意識を有していることが分かった。また、原風景の景観計画への活用および、原風景研究について参考となる多くの意見を頂いた。これまでの3回にわたるアンケート調査によって、各界における方々の原風景意識の形成について、生活環境のみならず民俗思想や文学(琉球歌謡—琉歌、おもろさうし等)など、無形の文化の影響も考えられることが分かった。今後、「原風景」の応用の実情及び、地域造景史的観点から「原風景」に影響を与える因子の歴史的形成経緯等についての研究を継続したいと考えている。

7. 参考文献

- 1) 上間 清：沖縄の原風景に関する基礎的考察：土木学会西部支部研究発表会講演概要集：1995.3 p.640-41
- 2) 村中道治・上間清：沖縄地域の原風景に関する研究—計画・設計技術者へのアンケート調査を中心として—：土木学会 土木史研究 第16号：1996.6 p.335-344
- 3) 村中 道治：沖縄地域の原風景に関する研究：1997.2